

改訂日 2016年6月 1日

作成日 2009年8月10日

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名：D-Dダイマー キャリブレーターB

キット構成：「キャリブレーター1」～「キャリブレーター5」

商品コード：737589

製品番号：RM78S-752YLS

化学物質等の名称：アジ化ナトリウム（含有量：0.95%）

会社名：株式会社LSIメディエンス

住所 東京都千代田区内神田一丁目13番4号

問合わせ先：学術部 インフォメーション担当

電話番号（緊急電話番号も同一）03-5994-2516

整理番号 5020

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	区分外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	タイプG
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分外
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）	区分外
	特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）	区分外
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	区分3
	オゾン層への有害性	分類できない
絵表示又はシンボル	なし	
注意喚起語	なし	
危険有害性情報：	水生生物に有害 長期継続的影響により水生生物に有害	

注意書き：

**【安全対策】**

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

眼、皮膚、衣類につけないこと。

適切な保護具を着用すること。

この製品を使用する時には、飲食又は、喫煙はしないこと。

環境に放出しないこと。

**【応急措置】**

眼、皮膚、衣類に付着した場合は、速やかに水やシャワーで洗浄すること。

口をすすぐ。

無理に吐かせないこと。

吸入した場合、新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸が楽な姿勢で休憩させる。

ただちに医師に連絡すること。

**【保管】**

施錠して保管すること。

**【廃棄】**

関連法令・条例に従って内容物／容器を廃棄すること

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成分及び含有量

成分（危険有害物質）：アジ化ナトリウム

化学式： $\text{NaN}_3$

CAS No：26628-22-8

官報公示整理番号（化審法）：(1)-482

含有量：0.95%

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

頭痛、眩暈、嘔吐等の自覚症状、前眼部障害、血圧降下又は気道障害

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、直ちに医師の処置を受ける。

必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ、直ちに製品に触れた部分を水又は微温湯を流しながら石鹼を使ってよく洗浄する。

外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は直ちに医療措置を受ける手配をする。

目に入った場合

直ちに清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。

洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水がよく行きわたるよう

に洗浄する。

#### 飲み込んだ場合

水で口の中を洗浄し、直ちに医師の処置を受ける。

被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

経口摂取によりヒトの中樞神経系に影響を与える。中樞神経組織に化学作用を及ぼす。

この粉塵および蒸気は眼、気道、肺および皮膚を強く刺激する。肺水腫が起こりうる。この固体と接触すると、眼と皮膚に強い刺激がある。

眼、鼻および喉の粘膜ならびに皮膚の炎症と痛み。

刺激性咳、吐気、嘔吐、頭痛、眩暈、血圧低下、呼吸困難、痙攣、意識喪失。

吸入：咳、頭痛、息切れ、鼻づまり、眼のかすみ、心拍数低下、血圧低下、意識喪失。

皮膚：発赤、水疱。吸収される可能性あり。

眼：発赤、痛み。

経口摂取：腹痛、吐気、発汗。

#### 応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグル等の保護具を着用する。

## 5. 火災時の措置

消火剤：火災に応じた消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤：情報なし

#### 特有の危険有害性

本製品に混合されているアジ化ナトリウムについて

不安定で、爆発性である。

火災又は強く加熱される場合、分解して猛毒で腐食性の窒素酸化物ガスが生じる。

酸、多くの金属(鉛、真鍮、銅、水銀、銀)と接触すると火災および爆発の危険性がある。

## 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

#### 環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

## 封じ込め及び浄化の方法・機材

粉塵が飛散しない方法で掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：飲み込んだりしない。目や皮膚に触れないよう適切な保護具を着用する。

本品は、原料としてヒト血清を使用している。

この血清は、HBs抗原、HIV抗体及びHCV抗体が陰性であることを確認しているが、使用の際は患者検体を取り扱うのと同様に注意すること。

保管：直射日光を避け、冷蔵（2～10℃）で施錠して保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：ACGIH（2009年版）：STEL 0.29mg/m<sup>3</sup>

（アジ化ナトリウムとして）

### 保護具

手袋・保護メガネ・マスク・保護服(白衣)等を装着すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

形状：粉末

色：白色

臭い：ほとんどなし

pH：－

沸点：－

引火点：データなし

発火点：データなし

## 10. 安定性及び反応性

本製品に含有されているアジ化ナトリウムについて示す。

安定性：法規制に従った保管及び取り扱いにおいては安定と考えられる。

危険有害反応可能性：融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがあり、火災や爆発の危険をもたらす。銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素と反応し、特に衝撃に敏感な化合物を生成する。酸と反応し、有毒で爆発性のアジ化水素を生成する。

避けるべき条件：融点以上に、特に急速な加熱

混触危険物質：銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素、酸  
危険有害な分解生成物：衝撃に敏感な化合物、アジ化水素

## 11. 有害性情報

本製品に含有されているアジ化ナトリウムについて示す。

急性毒性：経口	ラット LD50 45 mg/kg
経皮	ウサギ LD50 20 mg/kg

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：

経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した5人の実験技術者の例（NTP TR. 389（1991））、10～20 gを摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心拍数異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例（NTP TR. 389（1991））、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例（HSDB（2009））などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている（DFGOT vol. 20（2003））ことから、区分1（心血管系）とした。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例（ACGIH（2001））の所見として、肺水腫と脳水腫の記載があることから区分1（肺、中枢神経系、全身毒性）とした。なお、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣（DFGOT vol. 20（2003））、ウサギで血圧低下と心臓障害（PATTY（5th. 2001））が記録されている。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）

ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量（20 mg/kg/day）で臨床症状としてし眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された（NTP TR389（1991））。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量（10 mg/kg/day）で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている（NTP TR389（1991））ことから、区分1（中枢神経系、心血管系）とした。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20 mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分2（肺）とした。なお、イヌの反復経口ばく露試験（1～10 mg/kg/day）でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている（HSDB（2009））が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。

## 12. 環境影響情報

本製品に含有されているアジ化ナトリウムについて示す。

藻類/水生植物 ErC50=348ug/l 96h (Pseudokirchneriellasubcapitata)

### 13. 廃棄上の注意

#### 残余廃棄物

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。  
毒物及び劇物の廃棄の方法に関する基準に従うこと。

#### 汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

### 14. 輸送上の注意

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

### 15. 適用法令

消防法：適用外

労働安全衛生法：適用外

毒物及び劇物取締法：適用

化学物質排出把握管理促進法：適用外

### 16. その他の情報

#### 参照情報：

1. 厚生労働省 職場のあんぜんサイト
2. 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂 5 版
3. 経済産業省 事業者向け GHS 分類ガイダンス(平成 25 年度改訂版(ver. 1.1))

本データシート内容につきましては、現時点での最新の情報を記載しておりますが、全てを網羅しているものではありませんので、取扱いの際には十分注意して下さい。又、記載されている値は、安全な取り扱いを確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。